

「税金とは」と考えたとき、コロナ禍に対応していくために、ワクチン接種やギガスクール構想のタブレット配布、給付金など、払った税金の使い道を直接実感できる機会が多かった。税金を元に、日本の危機を何とか乗り越えようと必死だった数年間だったと思う。

他に税金の使い道として、どのような事があるかと考えたときに、高速道路工事のニュースを目にし、工事費には莫大な金額がかかっていることに驚いた。この工事費も税金でまかなわれている。

住んでいるマンションから車が行き交う京奈和自動車道が見える。ネットショッピングの普及により、トラックが流れるように走り、救急車が目的地へ急ぐ様子が見えた。親から京奈和自動車道の一部開通により天理から南部方面への移動が便利になり、以前は国道二十四号線の渋滞もひどかったが、渋滞が緩和されると聞いた。京奈和自動車道は近畿の経済・文化・暮らしを支える事業として着工が進められている。京奈和自動車道が全て開通することにより、シルクロードのおかげで、中国から日本に文化が入ってきて世界が広がったように、奈良の世界遺産や国宝等がもっと大勢の人に知ってもらえる時がくることが私は待ち遠しい。

奈良時代の税金の仕組みであった、庸、調は完成していない都の工事や寺院建設などの雇役に使われることが多かったらしい。聖武天皇は天然痘流行で多くの人々が亡くなり、地震などの災害で不安定な世の中を救うために東大寺を建立した。この当時の人々は、自分達が日々生きていくことだけで精一杯だったはずで、東大寺を建立することに不満もあったにちがいない。約千三百年たった今、東大寺は世界遺産に登録され、日本のみならず世界各国から観光客が訪れる奈良県を代表する観光名所となっている。奈良時代の人々に感謝しなければならない。

税金の使い道は、自分達に直接関係あることに使われると納得しやすいが、逆に、自分が必要としていないことに税金が使われると不満がでる。だが、自分が必要としていなくても、それを必要としている人がいるかもしれない。高速道路工事はコロナ禍に対応していた税金の使い方と比べると、必要性を感じるレベルは低いと思う人もいることだろう。

天然痘流行の奈良時代とコロナ禍だった現代の状況が似ていると感じた。奈良時代の人々は東大寺が観光名所となり経済を回す存在となっているなど夢にも思わなかっただろう。奈良時代の人々が苦労の中、東大寺を残してくれたように、京奈和自動車道の開通により未来の人々が、生活を豊かに送れるようになったと感じてくれたなら、こんな嬉しいことはない。この税のバトンがうまくいくことにより、未来の人達もまた次の世代につないでいこうと思ってくれるだろう。この税のバトンが永遠に引き続いていくことを願う。